

平成 23 年度～平成 27 年度

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

研究成果報告書

＜研究プロジェクト名＞

「マンガに関する国際的かつ先端的研究拠点の形成」

平成 28 年 5 月 31 日

京都精華大学

国際マンガ研究センター

目 次

1. はじめに	・・・ 2
2. 研究施設の概要	・・・ 4
3. 研究組織の概要について	・・・ 4
4. 研究プロジェクトの概要	・・・ 5
(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要について	・・・ 5
(2) 研究成果の概要について	・・・ 6
(3) 今後の研究活動方針について	・・・ 10
5. 研究発表状況	・・・ 12
6. 添付資料	・・・ 17

はじめに

本報告書は、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された、平成 23 年度より平成 27 年度までの 5 年間にわたる、京都精華大学国際マンガ研究センターの活動実績をまとめたものである。

事業全体を示すプロジェクト名は「マンガに関する国際的かつ先端的研究拠点の形成」。その名の通り、近年ますます国際的に広がるマンガ研究の潮流をふまえ、グローバルな視点と素材による研究の進展を後押しするとともに、国際マンガ研究センターがこの領域の先端的立場を担う国際的研究拠点に成長することを目標とした。

私たちはその目標を達成するために、次の二つのテーマに基づく活動を展開した。

テーマ 1 : 「グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の戦略的開催」

テーマ 2 : 「マンガミュージアムを活用した成果公開およびその成果の国際展開研究」

両テーマに基づいた個別の活動内容については本文をご覧ください。ここでは、「国際」と「先端」という本プロジェクトのキーワードに関わらせながら、この 5 年間で得られた成果と課題について、大局的観点から述べておきたい。

まず「国際」に関してだが、こちらに大きな影響を与えたのは、本プロジェクトの開始直前に発生した東日本大震災とそれに伴う原発事故である。これにより来日外国人の数が目に見えて減少する中、当然ながらテーマ 2 の舞台となる京都国際マンガミュージアムも少なからず打撃を受けた。同時に、被災地の復興支援や原発事故の実態解明に国際的関心が集まる中、はたしてマンガやマンガ研究に何ができるのか、自問自答の日々が続いた。

その現実には圧倒的に重く、今でも明快な答えを得られたわけではない。だが、2011 年度の国際学術会議でマンガとマンガ研究が〈3. 1 1〉以後の国際社会に果たし得る役割を展望するなど、スピーディかつタイムリーな議論を重ねることができた。私たちの問いを貫くのは、単に「マンガの世界」ではなく「世界におけるマンガ」であり、この 5 年間で蓄積した研究成果や国際的人脈はいっそう重要性和可能性を増したと断言できる。

次に「先端」に関して、こちらはマンガ研究の学術的意義の問い直し、とりわけ、その成果公開方法が課題となった。つまり、マンガミュージアムを成果公開の舞台に活用するうえで展示やワークショップという方法が効果的であるという、私たちが前提としてきた見地の学術的有効性を客観的に質保証することの難しさである。

実のところ、この点は本プロジェクトの中間評価時の留意事項なのだが、マンガ研究がこれまでも常に迫られてきた本質的課題であると同時に、マンガの社会進出や関連施設の増加によって、今後さらに生じるだろう課題でもある。

そこで、この課題に向き合うべく 2015 年度の国際学術会議のテーマを改善したほか、江戸戯画や原画'（ダッシュ）を用いた展示など、国際展開モデルを構築するうえで、常にその課題を念頭においてきた。

以上の結果、はたして国際マンガ研究センターがどれほど「マンガに関する国際的かつ先端的研究拠点」となり得たのか。本報告書を手がかりに、ぜひ多くの客観的評価を仰ぎたい。そしてこれからも、私たちの研究活動にご注視ならびにご協力いただきたい。「グローバルなマンガ研究」も「その成果の国際展開」も、いまだ黎明期なのだから。

京都精華大学国際マンガ研究センター長 吉村和真

◆研究施設の概要

京都国際マンガミュージアム（平成18年11月開設）

*住 所：京都市中京区烏丸通御池上る（元龍池小学校）

*建物構造：鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階建

*延床面積：5,010㎡（うち研究施設面積：4,825㎡）

*使用者数：研究員17名（その他、事務職員9名、派遣職員2名、アルバイト約20名、保守・警備職員2名、清掃員2名）

*平均来場者数：約1,000人／日

◆研究組織の概要について

二つの研究テーマで構成する本プロジェクトは、センター長および副センター長がそれぞれ主・副責任者となり、以下17名の研究員は、二つの会議体制にて研究活動を実施した。

国際マンガ研究センター 研究員一覧（2015年度末・平成27年度末現在）	
研究者名	役 職 ・ 所 属
吉村 和真	研究センター長・京都精華大学マンガ学部教授
ジャクリーヌ・ベルント	副研究センター長・京都精華大学マンガ学部教授
竹宮 恵子	研究センター研究員・京都精華大学マンガ学部教授
都留 泰作	研究センター研究員・京都精華大学マンガ学部准教授
清水 勲	研究顧問
呉 智英	研究顧問
應矢 泰紀	研究センター研究員
倉持佳代子	研究センター研究員
伊藤 遊	研究センター研究員
雑賀 忠宏	研究センター研究員
石田 葉月	研究センター研究員
ユー・スギョン	研究センター外国人研究員
ジェシカ・杉本・パウエンス	研究センター学外外国人研究員・龍谷大学准教授
表 智之	研究センター学外研究員・北九州市漫画ミュージアム専門研究員
小川 剛	研究センター学外研究員・崇城大学助教
猪俣 紀子	研究センター学外研究員・茨城大学准教授
岩下 朋世	研究センター学外研究員・相模女子大学講師

(1)「研究センター会議」

目 的：プロジェクトの進捗確認と目標達成度および費用対効果の評価・検証

構成員：センター長、副センター長、センター研究員、研究顧問2名、京都国際マンガミュージアム事務局長

運 用：センター研究員が各プロジェクトの進捗を報告、センター長は組織全体の責任者として、プロジェクト活動および予算配分、その費用対効果など、全般を把握し統括する。隔月開催を基本とする。研究員がローテーションで議事録を作成。

(2)「研究室会議」

目 的：日常的な研究活動の進捗報告と各種の調整および予算配分管理

構成員：センター長、センター研究員、学長室学術振興課長、京都国際マンガミュージアム事務局長

運 用：センター研究員が各プロジェクトの日常業務を報告、センター長は各プロジェクトの連携調整および予算執行状況等を報告する。学長室学術振興課は、センター活動全体を大学サイドから支援すると同時に予算管理を取り行う。隔週開催を基本とする。

◆研究プロジェクトの概要

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要について

1990年代後半以降、日本のマンガが文化や産業の面で国際的に高く評価される中で、国内の複数の大学で専門の学科やコース、講座が開設され、マンガ・アニメーション研究は着実に進化してきた。2000年代には、マンガ家の記念館など、産官連携によるマンガ関連施設も増加したが、国内外のマンガ研究者の学術交流や成果公開の場は限定されたままであり、国際的に広がりを見せるマンガ研究のための拠点形成が求められていた。このような背景をふまえ、京都精華大学では平成18年4月に「国際マンガ研究センター」を設置、同年11月には京都市と共同で「京都国際マンガミュージアム」を開館し、先鞭を付けてきた。

本研究プロジェクトでは、国内外のマンガに関する学術的研究の交流と深化を目指し

て、テーマ1「グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の戦略的開催」、ならびにテーマ2「マンガミュージアムを活用した成果公開およびその成果の国際展開研究」に取り組むこととした。その目的は、日本に中心的役割が期待されるマンガ研究領域において、世界をリードできる国際的かつ先端的な研究拠点を形成することである。この二つのテーマに基づく研究活動によって得られる一連の成果は、国内外のマンガ研究動向の把握と推進、マンガの専門性と実務性を兼ね備えた研究者や高度専門職業人の育成など、今後のマンガ研究領域の基盤整備と国際発展にとって大きな意義を有している。

計画の概要は、テーマ1については、国際的なマンガ研究に関する最新の動向をふまえ、年に1回、国際学術会議の開催と紀要『国際マンガ研究』の刊行を実施すること。テーマ2については、京都国際マンガミュージアムの展示・講演等を研究成果公開に活用するとともに、原画ダッシュ資料や作画ワークショップなど、国際展開モデルを開発・蓄積することである。

(2) 研究成果の概要について

テーマ1：「グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の戦略的開催」

毎年1回、計5回の国際学術会議を開催した。場所、日程、全体テーマ、概要は下記の通り。なお、発表者やタイトルなどについては、別添の「国際会議」資料に記載。

①平成23年度

「第3回国際会議」、於 韓国・プチョン、漫画映像振興院

期 間：9月14日～15日

テーマ：「マンガの社会性 - 経済主義を超えて -」

～マンガの作品・作家の研究に傾倒しがちな日本と、マンガの市場や流通など経済的側面の研究が目立つ韓国との比較を通じ、とりわけ〈3. 11〉を経験した日本の立場から、いかにマンガと社会を切り結ぶ研究テーマの設定やその国際展開が可能になるかを問うことができた。

②平成24年度

「第4回国際会議」、於 神戸大学、京都国際マンガミュージアム

期 間：6月1日～3日

テーマ：「〈マンガ・ワールズ〉ーサブカルチャー、日本、ジャパノロジーー」

～サブカルチャー／ポピュラーカルチャーとしてマンガを論じるうえで、「クールジャパン」という言葉に示されるように、国際的視座を入れることによって強調されて

しまう「日本らしさ」が抱える可能性と課題にアプローチ。文化理論としてのマンガ研究の意義を深めた。

③平成25年度

「第5回国際会議」、於 インドネシア・バンドン工科大学

期 間：6月13日～16日

テーマ：「オルタナティブ・コミック・グラフィック・ダイアリーから

マンガスタイルまで」

～マンガとそれに類似する表現や解釈が持つ多様性が、国際的なマンガ受容の広がり
とどのように関係しているか、実作のワークショップも交えながら、制作者と研究者
の双方の立場から情報共有と議論を深めた。特に東南アジアの事例を蓄積することが
できた。

④平成26年度

「第6回国際会議」、於 オーストラリア・ウーロンゴン大学

期 間：10月31日～11月2日

テーマ：「マンガ・フューチャーズ - 日本内外の制度とファンへのアプローチ」

～性や暴力の表現規制問題をはじめ、マンガの流通や受容をめぐる法的制度とファンの
立ち位置をテーマに、近い将来の国際的なマンガ状況がどのような諸問題に直面す
るか、オーストラリアと日本がおかれた現状とその違いから議論を交わした。

⑤平成27年度

「第7回国際会議」、於 京都市、京都国際マンガミュージアム

期 間：9月25日～27日

テーマ：「コミコロジー - 理論と実践を組み合わせる新《研究》」

～「グローバルなマンガ研究」の深化と拡大に求められる視座と方法について、アー
カイブや展覧会、ワークショップなど、京都国際マンガミュージアムが蓄積してきた
実績の評価を兼ねる形で、マンガの理論と実践の融合がもたらす可能性と課題を展望
した。

各年度の国際会議における研究発表者の国籍は、アメリカ、オーストラリア、西欧、
東欧、中東、東南アジア各地など計22カ国に渡り、グローバルかつアカデミックに「マ
ンガ」が論じられる最前線の間となった。また、毎年度開催することで、研究者間の人
的ネットワークが着実に継続発展し、個人だけでなく大学や関係団体との情報交流の場
としてきわめて有効な機会を生み出すことができた。とりわけ、「グローバルなマンガ
研究の確立」にとって必要なテーマの析出と議論の蓄積に注力してきたことで、近年ま
すます拡大する海外のマンガ研究動向を具体的に把握することができ、結果的により洗
練された有用なプログラムを提示することができたといえる。同時に、国際的なマンガ

研究にとって必要となる資料、アーカイブのイメージについて議論を深めることができた。日本が収集対象とするマンガは膨大かつ大衆的であるのに対し、海外とりわけ欧米においては、例えば、従来の芸術観に由来する原画尊重の態度に示されるように、収集するマンガの定義や対象がしばしば異なるため、このテーマを集中的に議論できたことは、今後のグローバルなマンガ研究の交流にとってとくに優れた成果となった。

会議終了後は、毎年1回、計5巻の紀要『国際マンガ研究』を刊行した。これは各会議の発表の中から研究論文に値する内容を選出したもので、それぞれ500部を刊行。ただし、第7回会議を基とした第6号については、ホームページ上でpdfファイルとして公開の予定。

一方で本テーマ運用上の反省点として挙げられることは、『国際マンガ研究』編集作業にあった。編集リーダーのほかに、各言語の翻訳者（日本語、英語、韓国語、中国語）、各言語圏のマンガ研究に従事する校閲スタッフ、そして論集のレイアウト・デザインをする担当者による分業体制を整えたものの、全体統括する編集者に負担が偏重したり、日本語校閲の点で海外執筆者との調整が難航したりするなど、「グローバルなマンガ研究の最前線」を企図した定期刊行物としての質を担保するには、予想以上に編集体制の細部設計と専門性を備えた人材育成が急務であることが判明した。また、本支援事業が終了する平成28年度以降は、国際学術会議の毎年開催から隔年開催へ変更すること、『国際マンガ研究』の出版をオンライン公開へ変更することなど、実施手法や媒体を変える予定であるが、この間に議論してきたテーマや構築してきたネットワークを継続発展させるための体制作りはまだ整っていない。これに対応する新たな会議体の設置やWEB編集工程の組み直しなど、研究拠点のさらなる発展に資する次年度以降の体制改革を着実に進める必要がある。

テーマ2:「マンガミュージアムを活用した成果公開およびその成果の国際展開研究」

研究成果の一般公開については、マンガミュージアム内および海外を含めて計37回の展示会を開催した。海外のマンガ作品や日本の漫画家の制作現場、日本マンガと海外文化との関わりなど、グローバルなマンガ研究の促進と蓄積が目的であるため、キャプションや図録、リーフレット類は、原則として英訳付きとした。

講演会の開催については、毎年3回、5年間で計15回の開催計画を予定していたが、平成28年3月末までに計21回の開催結果となった。テーマ別研究会とあわせると計60回を実施することができ、当初計画の「グローバルなマンガ研究」に資する内容としては、予想を超える進捗であった。海外からの招聘ゲストには、フランス、アメリカ、インドネシア、デンマーク、香港などから来日した作家や研究者が出演し、現地のマンガ事情などを把握・公開することができた。

また、ワークショップの開催については11種の企画を立案、ミュージアム内では、計282回実施し、約12,000名が参加した。館外でも計47回、約1,300名が参加し、順調に進行した。これらの研究展示会、講演会およびワークショップ等の開催報告については、研究センターのホームページにて公開した。

＜「原画`ダッシュ」＞について

マンガ原稿の劣化や紛失の危険を避けるため、微妙な色調整を幾度と重ねて精巧な印刷技術で完成させる複製原画＝「原画`（ダッシュ）」制作プロジェクトは、本研究センターが独自開発しているコンテンツで、作品の海外展や復刻にも活用できる利点を持ち、国際展開モデルとしての汎用性が非常に高いことが確認できた。過去5年間では合計224点を制作し、マンガミュージアムを主とした国内展示のほか、フランス（平成24年にパリ・ポンピドゥ・センター出展）やハンガリー、オーストラリア、イギリスと4カ国の海外巡回展を実施することができた。また、さらなる国際展開の促進を図るため、過去の成果をまとめた作品図録（2,000部、日英併記）および英語版ガイドブック（1,000部）を刊行した。平成26年には韓国語版ガイドブック（500部）、平成27年には中国語版ガイドブック（1,000部）を刊行した。日本のマンガが国際的な関心を集めその資料的価値が内外で見直されつつある現在、本研究活動の成果は、将来のマンガ資料の国際展開には欠かせないコンテンツとなっている。

＜「LLマンガ」＞について

「マンガを用いた異文化交流の手法開発」については、北欧を中心に知的障害者や自閉症の読者向けにやさしく読めるように編集制作された「LLブック」を参考にして、同じ目的の「LLマンガ」制作の研究と開発を進めた結果、そのパイロット版となる刊行本は、特殊教育学会で発表されたほか、平成25年度の国際児童図書評議会障害児図書資料センターの国内推薦図書にエントリーされた。

＜「江戸戯画」コレクション資料＞について

研究史料として過去4年間収集してきた「江戸戯画」を活用した成果としては、江戸中期から昭和初期、そして現代のマンガへ至るまでの連続性を見出す研究展示「江戸からたどる大マンガ史展」を実施した。これは、複製大量印刷以後という時代区分から、日本のマンガが幕末よりどのような足跡をたどり、発展してきたかを概観できる内容となっている。本展の関連資料には、海外からの関心も高く、国際交流基金の協力により平成27年の8月から11月にかけてオーストラリア・シドニーでの展覧会が実現した。平成28年以降も、ドイツ国内にて3件の出展が計画されている。

足かけ5カ年にわたり、京都国際マンガミュージアムにて各種の展示やワークショップなどを国際展開モデルとして実施・公開してきた過程においては、国際交流基金をはじめ国内外の関連機関や研究者からの連携依頼があい次ぎ、それを契機に巡回展やシンポジウムの形でさらに発展型モデルを提示することができた。これにより、本事業の主題である「マンガに関する国際的かつ先端的研究拠点の形成」に大きく貢献し得た。特に「原画`（ダッシュ）」資料と「江戸戯画コレクション」を活用した展示には、海外からのオファーが相次いでおり、将来的にもいっそうの国際展開が期待できる。

研究成果公開のためのメディア＝拠点として活用してきた京都国際マンガミュージアムは、平成27年度には年間約30万人の来館者があり、そのうち約5万人が海外か

らという、研究機関としては稀な規模の集客がある施設である。そこで実施される各種イベントの参観者によって、部分的にせよ研究成果が共有され、帰国後にそれぞれの地域や機関に伝播し、例えば展示会やワークショップの共催や協力依頼の形で諸成果が循環・展開していることから、国際的なマンガ研究拠点としての認知度は着実に高まった。

一方、本テーマ上の課題としては、研究センターが成果公開の手法と位置付けてきた展示や講演、ワークショップについて、開催自体が目的化しているように見えるという問題があった。したがって、その実施から得られる具体的な学術的成果、そこから導かれる新たな研究テーマ、さらにそれをふまえて計画される展示や講演などの論理的繋がりなどを可視化し、あわせて発信するための計画の必要を認識させられた。

また、電子デバイスによる次世代型展示スタイルの模索については、メディア環境の変化が予想以上に目まぐるしく、具体的な研究成果が得られなかった。結果として、海外のデバイス活用との比較研究を進めたほか、マンガだけでなく現代アート領域に視野を広げることで、実験的にマンガ作品をプロジェクションマッピングで表現する（「横山裕一」展）など、メディアアート分野とのコラボレーション上映展示を行うことに限られた。

また、ワークショップの運用に際しては、担当指導員にはマンガ作画力と指導力が求められるが、近年増加する海外需要への対応には、さらに語学力も付加されるため、グローバルな人材育成が急務となっており、その実践については次年度以降の課題である。

（３）今後の研究活動方針について

テーマ１：「グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の戦略的開催」においては、平成２８年度以降も、過去５年間に渡る本学術会議開催によって構築された研究者間ネットワークを基盤に、「Call for Paper 方式」による国際学術会議を京都国際マンガミュージアムで継続的に開催していく方向とする。これにより、各国・地域へのネットワークの拡大と、名実ともに国際的かつ先端的研究拠点としての国際マンガ研究センターの立場のさらなる充実を図りたい。また、紀要『国際マンガ研究』については、WEB による発信を中心とした査読媒体として国際学術会議で形成された研究者ネットワークを軸に投稿を募るなど、平成２８年度以降も継続してグローバルなマンガ研究の促進に資するものとする。

テーマ２：「マンガミュージアムを活用した成果公開およびその成果の国際展開研究」においては、グローバルなマンガ研究を企図した展示を続ける過程で、海外より日本のマンガ史をテーマとした展示協力依頼があり、改めて比較文化論の基盤になる日本マンガの歴史を通覧する研究展示の需要を確認したことから、今後とも幕末～明治の戯画や風刺画などから成る「江戸戯画コレクション」を体系的に収集し、「大マンガ史展」を補強した海外巡回展を見据えて、展示内容や手法の研究を継続していく方向としたい。また、「マンガの収蔵・展示施設の国際比較」については、フランス、韓国、ベルギー

など、これまで調査してきた海外の施設に加え、近年増加傾向にある国内の関連施設も視野に入れ、これ以後も比較文化論やミュージアム論の先端研究をリードしていく。同時に、近年の海外におけるマンガワークショップ需要の高まりを考慮し、平成28年度以降は、海外普及版ガイドブックの作成に着手する計画である。あわせて、専門人材の育成プログラムと実践モデルの開発に向けた研究に取り組みたい。

最後に、国との連携においては、文化庁「メディア芸術コンソーシアム構築事業（平成22年度～平成26年度）」に、国内のマンガ領域研究拠点として、京都精華大学国際マンガ研究センターからセンター長、副センター長、センター研究員が参画し、当該コンソーシアムの構築に向けたアドバイザーや個別プロジェクトの実務者を複数担当することができた。その基盤はいずれも本研究プロジェクト事業で培った手法や開発モデルによるものである。

また、平成26年度に設立された「MANGA マンガ・アニメ・ゲームに関する議員連盟」が開催する「MANGA ナショナル・センター構想に関する有識者会議」には、本センター長が出席し、この5カ年の事業実績をふまえ、マンガ研究センターおよびマンガミュージアムの学術的・社会的役割や国際交流拠点としての可能性・必要性について説明を行う機会を得た。いずれの場合にも、国内の中核施設の先行事例として京都精華大学と京都国際マンガミュージアムの名称が取り上げられるなど、「マンガに関する国際的かつ先端的な研究拠点の形成」を目的とした本研究プロジェクト事業の成果は社会的評価を得たレベルであると確信している。

以上

◆研究発表状況

雑誌・論文

- 1：吉村和真、「マンガの《現在》につながる道：マンガ・リテラシー形成と変容」、『立命館言語文化研究』第24巻2号、査読無、2013年、33頁～48頁。
- 2：倉持佳代子、吉村和真、「漫画家・やなせたかしの履歴書」、『ユリイカ増刊号』、査読無、青土社、2013年、226頁～234頁。
- 3：小川剛、久保直子、伊藤遊、*「文化施設で〈マンガワークショップ〉をすること—京都国際マンガミュージアムにおける実践報告から—」、『京都精華大学紀要』第42号、査読無、京都精華大学、2013年、89頁～107頁。
- 4：ジャクリーヌ・ベルント、2012_“Facing the Nuclear Issue in a »Mangaesque« Way: Revisiting Barefoot Gen after 3.11,” Cinergie (Italian online journal on cinema and related media), <http://www.cinergie.it/?p=1840> [in English; peer-reviewed]. 査読有。
- 5：小川剛、*「マンガ教育の国際化に向けて—海外版ワークショップ〈マンガの描き方教室〉の実施報告—」、『京都精華大学紀要』第41号、査読無、京都精華大学、2012年、85頁～110頁。
- 6：吉村和真、「鉄腕アトム」に込められた手塚治虫の思想—〈宇宙人〉を迎えるために—、『慶應義塾大学アート・センター Booklet 20』、査読無、2012年、66頁～83頁。
- 7：伊藤遊、村田麻里子、山中千恵、谷川竜一「広島市まんが図書館における来館者調査—マンガを「図書館」で扱うとはどういうことなのか」、『京都精華大学紀要』第41号、査読無、京都精華大学、2012年、111頁～127頁。
- 8：猪俣紀子、伊藤遊、山中千恵、吉村和真、「マンガを誰が、何のために集めるのか—フランスの〈マンガミュージアム〉CIBDIの事例から」、『京都精華大学紀要』第39号、査読有、京都精華大学、2011年、211頁～224頁。
- 9：山中千恵、村田麻里子、伊藤遊、谷川竜一、*「韓国漫画映像振興院における来館者調査—来館者の物理的・社会文化的・個人的コンテクストをめぐって—」、『人間学研究』第13号、査読無、中部人間学会、2015年、47頁～64頁。
- 10：伊藤遊、*「ポピュラー文化ミュージアムの困難と可能性」、『歴博』第188号、査読無、国立歴史民俗博物館、2015年、28頁～29頁。
- 11：村田麻里子、オレリアン・パスキエ、山中千恵、伊藤遊、「アングレーム国際 BD フェスティバル韓国漫画展「枯れない花」にみる場と展示の〈政治〉」『関西大学社会学部紀要』第46巻第1号、査読無、関西大学社会学部、2014年、57頁～81頁。

図 書

- 1 : 吉村和真、「手塚治虫—逆風が育んだ「マンガの神様」、『ひとびとの精神史 第4巻 東京オリンピック 1960年代』所収、岩波書店、2015年、95頁～120頁。
- 2 : 都留泰作、『〈面白さ〉の研究 世界観エンタメはなぜブームを生むのか』、角川書店、2015年、304頁。
- 3 : 京都精華大学 SEIKA マンガ教育研究プロ編、竹宮恵子他著、『マンガで読み解くマンガ教育』、阿吽社、2014年、254頁。
- 4 : ヤマダトモコ、芳賀直子、図書の家、岩下朋世、倉持佳代子、『バレエ・マンガ—永遠なる美しさ』、太田出版、2013年、144頁。
- 5 : 岩下朋世、『少女マンガの表現機構—ひらかれたマンガ表現史と「手塚治虫」』、NTT出版、2013年、330頁。
- 6 : 吉村和真、福岡良明、山口誠『複数の「ヒロシマ」—記憶の戦後史とメディアの力学』、青弓社、2012年、394頁。
- 7 : 竹宮恵子、倉持佳代子、岩下朋世、*『少女マンガの世界 原画' (ダッシュ) 10年の軌跡』、京都精華大学国際マンガ研究センター、2011年、88頁。
- 8 : ジャクリーヌ・ベルント編・著、*『美術フォーラム21』24号、特集「漫画とマンガ、そして芸術」、醍醐書房、2011年、117頁。
- 9 : 伊藤遊、谷川竜一、村田麻里子、山中千恵、*『マンガミュージアムへ行こう』岩波書店、2014年、215頁。

学会発表

- 1 : 吉村和真、おざわゆき、こうの史代、西島大介、ヤマダトモコ、日本マンガ学会第15回大会シンポジウム「「はだしのゲン」の多面性」、第2部「マンガ家が読む「ゲン」」、広島市 アステールプラザ、2015年6月28日。
- 2 : 伊藤遊、山田奨治、谷川健司、高馬京子、白石さや、日本マンガ学会第15回大会「マンガ・アニメと〈戦い〉 - 社会・文化とのインタフェースを考える」、研究発表(ラウンドテーブル)、アステールプラザ、2015年6月27日。
- 3 : 吉村和真、呉智英、ヤマダトモコ、村上もとか、安彦良和、日本マンガ学会第12回大会 シンポジウム「マンガとアジア」、第2部「いま、アジアを描く」、北九州市漫画ミュージアム、2013年7月7日。
- 4 : ジャクリーヌ・ベルント、2013/01/23-25 International Workshop Women's Manga in Asia: Glocalizing Different Cultures and Identities; Women's Manga Research Project (JSPS KAKENHI Grant Number 24320047), The Department of Japanese Studies

at the University of Sydney + The Art Gallery of New South Wales, paper
“Invisibly Asian? On Representation and Affect in Women’s Manga”

会場：シドニー大学日本学科・ニューサウスウェールズ美術館での国際会議「アジアにおける女性マンガ」、司会、研究報告「不可視のアジア？女性マンガにおける表象と情動をめぐって」

- 5：ジャクリーヌ・ベルント、2012/11/30-12/02 Mechademia Conference on Manga, Anime and Media Theory from Japan: “World Renewal: Counterfactual Histories, Parallel Universes and Possible Worlds” ; Panel organizer, paper on “Subversion impossible? Rediscovering manga’s critical potential after 3-11,” Seoul, Dongguk University,

ソウル東国大学校、国際学術会議「日本発のアニメ・マンガ・メディア論をめぐる第3回メカデミア会議」、パネル企画・司会、研究報告「転覆不可能？3.11以後再発見されるマンガの批評性をめぐって」

- 6：倉持佳代子、マンガ・ライブラリー10周年記念シンポジウム・キーノートスピーチ「原画’（ダッシュ）を通した日本の少女マンガ史（英語発表）」、オーストラリア・モナシュ大学・日本研究センター、2012年11月23日。

- 7：ジャクリーヌ・ベルント、2012/11/12 International Conference “Teaching Japanese Popular Culture” ; National University of Singapore, Dept. of Japanese Studies, keynote teaching demonstration “Reading Manga”

<http://www.fas.nus.edu.sg/jps/research/jps2012.htm>

<http://wiki.nus.edu.sg/display/TJPCC/Jacqueline+Berndt>

シンガポール国立大学日本学科、国際学術会議「日本ポピュラー文化を教える」、キーノート・模擬講義「マンガの読み方」

- 8：吉村和真、都留泰作、藤澤和子、岩澤亜希、日本特殊教育学会第50回大会 自主シンポジウム、*「LL（やさしく読める）マンガの制作」、つくば国際会議場、2012年9月30日。

- 9：ジャクリーヌ・ベルント、2012/06/28-30 International Conference “Interkulturelle Schauplätze in der Großstadt/Intercultural Sites in the Global City”, Bonn University, Comparative Literature/Culture Research; paper “Sichtbarmachen: Postnukleare Landschaften im Manga” （ドイツ語）
ボン大学比較文学文化研究所、国際シンポジウム「大都会における異文化交流の場」、研究報告*「可視化するマンガ：都市の核風景論」

- 10：ジャクリーヌ・ベルント、2012/06/21 17th International Conference on Cultural Economics in Kyoto (ACEI 2012)

http://www.jace.gr.jp/ACEI2012/social_program/visit_to_the_manga_museum.html

lecture on “Locally Global: The Kyoto International Manga Museum as a Mirror of Japanese Comics Culture”

第17回国際文化経済学会、特別講演（京都国際マンガミュージアムにて）

* 「ローカルな形でのグローバル性：日本マンガ文化の鏡像としての京都国際マンガミュージアム」

11: ジャクリーヌ・ベルント、2012/05/17-19 International Symposium “Asian American Graphic Narratives”, Hong Kong University

(<http://www.amstudy.hku.hk/news/graphic2012/index.html>)

paper “The media-cultural element: Two graphic novels by Japanese American authors read in Japan”

香港大学での国際シンポジウム「アジア系アメリカ人によるコミック物語」

「メディア文化という要素：日本（語）で読む日系アメリカ人作家による2つのグラフィック・ノベル」

12: ジャクリーヌ・ベルント、2012/03/24 International Conference・国際会議「Women and Manga: Connecting With Cultures Beyond Japan/女性とマンガ：日本を越え、つながりゆく文化」；科学研究費 Women's Manga Research Project (JSPS KAKENHI Grant Number 24320047), ベトナム日本文化交流センタ；会場：ハノイ女性博物館 The Japan Foundation The Japan Foundation Center for Cultural Exchange in Vietnam, asianbeat of Fukuoka Prefectural Government, Shojō Manga Power Project;

paper “Gendering Comics: Possibilities and Limitations of “Women's Manga”・研究報告「ジェンダー化されるコミック：『女性マンガ』の可能性と限界」

13: 吉村和真、金水敏、ヤマダトモコ、この史代、日本マンガ学会第11回大会 シンポジウム「マンガと地域（ローカリティ）」、第2部「全国に広がる地方／地元マンガ」、かるぽーと高知、2011年7月3日。

研究成果の公開状況（上記以外）

* 国際マンガ研究センターホームページでは、これまでの研究展示、公開研究会・シンポジウムなどの内容・成果を <http://imrc.jp> 上で報告。国際会議の研究論文（日英）については、無料でPDFを一般公開している。また、一部の研究発表はU-streamによるリアルタイム映像配信を行っている。

* Berndt, J., eds, 2011, Intercultural Crossovers, Transcultural Flows: Manga/Comics (Global Manga Studies, Vol.2), Kyoto Seika University International Manga Research Center. <http://imrc.jp/lecture/2010/11/2.html>

* ジャクリーヌ・ベルント編、2012、『日韓漫画研究（国際マンガ研究3号）』、京都精華大学、国際マンガ研究センター <http://imrc.jp/lecture/2011/10/3.html>

* ジャクリーヌ・ベルント編、2013、『日本マンガと「日本」——海外の諸コミックス文化を下敷きに（国際マンガ研究4号）』、京都精華大学国際マンガ研究センター <http://imrc.jp/lecture/2012/06/4.html>

その他の研究成果等

①新聞記事

- * 吉村和真、伊藤遊、表智之、倉持佳代子、猪俣紀子、『朝日新聞』夕刊、「みんなのマンガ学」連載（毎週）、2008年4月～2013年3月。
- * 吉村和真、伊藤遊、猪俣紀子、倉持佳代子、『朝日新聞』夕刊、「いまどきマンガ塾」連載（毎月）、2013年4月～現在。
- * 吉村和真、伊藤遊、猪俣紀子、倉持佳代子、清水勲、『中日新聞』朝刊、「中部マンガ研究所」連載、2012年4月～2015年3月。

②雑誌記事

- * 吉村和真、伊藤遊、表智之、倉持佳代子、猪俣紀子、ジェシカ・杉本・パウエンス、『GALAC』、「マンガ」、2009年4月～2013年3月。
- * 倉持佳代子、『ダ・ヴィンチ』、「出版ニュースクリップ コミック」、2012年5月～現在。
- * 吉村和真、伊藤遊、倉持佳代子、雑賀忠宏
『現代用語の基礎知識』、「マンガ」、自由国民社、2011年～現在。

③作品解説

- * 伊藤遊、猪俣紀子、倉持佳代子、「池田理代子主要作品解説」、『池田理代子の世界』、朝日新聞出版、2012年、179頁～210頁。
- * 吉村和真、伊藤遊、岩下朋世、倉持佳代子、「諸星大二郎作品解説」、『文藝別冊 諸星大二郎』、河出書房新社、2012年、203頁～233頁。
- * 伊藤遊、表智之、猪俣紀子、岩下朋世、「高橋葉介作品解説」、『文藝別冊 高橋葉介』、河出書房新社、2013年、195頁～225頁。
- * 伊藤遊、岩下朋世、倉持佳代子、『LOVE and… わたしのマーガレット展公式図録』わたしのマーガレット展プロジェクト、2014年。

④インタビュー

- * 杉本ジェシカ、猪俣紀子、Kawaii!: Japan's Culture of Cute, Kyoto International Manga Museum、Prestel（ドイツ）、2013年、24頁～27頁。

⑤シンポジウム再録

- * 諸星大二郎、呉智英、伊藤遊（構成）、「諸星大二郎の神話世界」、『文藝別冊 諸星大二郎』、河出書房新社、2012年、126頁～137頁。

1. 紀要「国際マンガ研究」2巻～5巻（表紙・目次）	・・・18
2. 「原画`ダッシュ」出版物	・・・22
3. 「LL マンガ」（表紙・目次）	・・・25
4. 研究展示ポスター（2011年～2016年3月・抜粋）	・・・26
5. 国際マンガ研究センター主催展示一覧	・・・37
6. メディア記事掲載件数一覧（2011年～2016年3月）	・・・39
7. 新聞記事コピー（2011年～2016年3月・抜粋）	・・・40

Intercultural Crossovers,
Transcultural Flows:
Manga/Comics

Global Manga Studies, vol. 2



表 紙

【国際マンガ研究 2】

Global Manga Studies, vol2

2011 年 12 月 初版第 1 刷発行

編 集：ジャクリーヌ・ベルント

(京都精華大学国際マンガ研究センター)

発行所：京都精華大学国際マンガ研究センター

Table of Contents

Introduction Jaqueline BERNDT	1
1. Particularities of boys' manga in the early 21st century: How <i>NARUTO</i> differs from <i>DRAGON BALL</i> ITO GO	9
2. Subcultural entrepreneurs, path dependencies and fan reactions: The case of <i>NARUTO</i> in Hungary Zoltan KACSUK	17
3. The <i>NARUTO</i> fan generation in Poland: An attempt at contextualization Radoslaw BOLALEK	33
4. Transcultural Hybridization in Home-Grown German Manga Paul M. MALONE	49
5. On the depiction of love between girls across cultures: comparing the U.S.- American webcomic <i>YU+ME: dream</i> and the yuri manga "Maria-sama ga miteru" Verena MASER	61
6. Gekiga as a site of intercultural exchange: Tatsumi Yoshihiro's <i>A Drifting Life</i> Roman ROSENBAUM	73
7. The Eye of the Image: Transcultural characteristics and intermediality in Urasawa Naoki's <i>20th Century Boys</i> Felix GIESA & Jens MEINRENKEN	93
8. Cool Premedialization as Symbolic Capital of Innovation: On Intercultural Intermediality between Comics, Literature, Film, Manga, and Anime Thomas BECKER	107
9. Reading (and looking at) <i>Manko Parade</i> – A methodological suggestion for understanding contemporary graphic narratives Maahveen AHMED	119
Epilogue Steffi RICHTER	135

目 次

国際マンガ研究 3 Global Manga Studies, vol. 3



日韓漫画研究

編集：ジャクリーヌ・ベルント
(京都精華大学国際マンガ研究センター)
山中千恵

編集協力：杉本バウエンス・ジェシカ、
工藤陽子、朴秀寅、佐和那々緒

発行所：京都精華大学国際マンガ研究センター

■ 目次 ■

序文—学術的漫画研究をめぐる日韓交流を志して ジャクリーヌ・ベルント	1
序文—第3回国際学術会議「漫画の社会性—経済主義を越えて」 後記 漫画研究の多様性とその発展に關して バク ソクファン（朴福煥）／葉仁貴 訳	1
第1部 韓国漫画の特性への接近	17
1 北米コミックス市場から見た日本マンガと韓国マンガ 小田切博	19
2 横越航海旅から考える漫画表現形式の拡張 —韓国純情漫画作家の事例から 山中千恵	37
第2部 漫画と女性：少女・純情・ヤオイ	59
3 純情漫画の原点としてのオム・ヒジャ —少女漫画特有の表現との変容から キム・ソウォン（金素暎）	61
4 純情漫画のいくつかの美学的動因 ハン・サンジョン（韓道暎）／杉津 暎	77
5 少女マンガを支えた読者共同体のゆくえ —1990年代の『リボン』から 倉持佳代子	93
6 「他書」としてのヤオイ —1990年代における韓国同人文化の発容をめくって キム・ヒョジン（金孝暎）	109
7 社会批評との関係から見たグローバルな「両子」：漫画文化 —その可能性と限界 ジェシカ・パウエンス＝形本	135

第3部	漫画の諸ジャンル	149
8	韓日の新聞漫画の比較論 「林巨正」と「応八武士道」を例に イム・ヘジョン（佐藤貞）	151
9	線から捉えなおす「前面」 一さいとう たかをを中心に 竹内美咲	175
10	「学習マンガ」キャラクター研究序説 一教育・リアリティー 伊藤道	201
11	韓国のウェブトゥーン パク・スイン（朴素寅）	227
第4部	「芸術」の名において紙面の彼方へ	243
12	デジタル社会における融合化が漫画というジャンルに もたらす提案の研究 ハン・チャンワン（韓昌完）／崔仁貴 訳	245
13	境営芸術としての漫画からみた、韓国漫画展の争点と 実践戦略 チョ・ヒュン（趙煥允）／山中千恵 訳	259
14	「芸術」に挑戦するマンガ 一井上建彦「最終のマンガ展」を例に ジャクリーヌ・ペルント	289
日韓近代漫画年表 パク・ジンヒ（朴珍姬）／竹内美咲／鈴木翠		295
執筆者プロフィール		307

日本マンガと「日本」 海外の諸コミックス文化を下敷きに

国際マンガ研究 4 Global Manga Studies, vol. 4



ジャクリーヌ・ベルント 編
JACQUELINE BERNOT

京都精華大学国際マンガ研究センター
KOKORO MANGA RESEARCH CENTER

表 紙

【国際マンガ研究 4】

海外の諸コミックス文化を下敷きに

2014 年 3 月 25 日初版第 1 刷発行

編 集：ジャクリーヌ・ベルント
(京都精華大学国際マンガ研究センター)

編集協力：杉本バウエンス・ジェシカ、
工藤陽子、雑賀忠宏、佐和那々緒

発行所：京都精華大学国際マンガ研究センター

目 次

序文	ジャクリーヌ・ベルント	3
第 1 部 台湾		
1	台湾の漫画審査制度と日本漫画のアンダーグラウンド化展開 李衣雲	13
2	台湾漫画家 AKRU との出会い 日本的にみえる表現についての一考察 池田美香	25
3	台湾の男性同性愛者による BL 漫画の批判的受容 周典芳	41
第 2 部 東南アジア		
4	コミックを「政治化」する「影響」論と「様式」論 インドネシアのコミック書説について フェブリニア・シホンビンダ／石川隆 訳	59
5	タイコミックスの歴史 多様なマンガ文化の関わりで形成された表現 トジラカーン・マシマ	85
6	ベトナムの漫画文化 ―その過去と現在の概説― グエン・ホン・フック	119
7	ベトナムの若者文化 ―漫画を中心に― ファム・ホアン・フン	145
8	フィリピン・コミックスの「死」について カール・イエアン・ウイ・チェン・チュア クリスティン・ミシェル・サントス／西原真里 訳	159
9	かわいらしさとおそろしさ、そして憂鬱のラブソング シンガポール・マンガ家 FSc 大城勇美	181

第 3 部 西欧

10	フランスとイタリアにおける「日本」と「マンガ」のイメージ マンガ読者／非読者調査の第 1 次主要結果報告 マルコ・バリテッリ／小林翔 訳	197
11	フランスにおけるマンガ研究 猪俣紀子	235
12	フランスのマンガ市場と腐女子 ジェシカ・バウエンス＝杉本	249
13	「イベロ・マンガ」 スペインでの主流からニッチとしての女性マンガとガフオタクまで ホゼ＝アンドレス・サンティアゴ・イグレスィアス／雑賀忠宏 訳	265
	執筆者プロフィール	305

目 次

マンガにおける
オルタナティブの多面性

国際マンガ研究 5 Global Manga Studies, vol. 5



表 紙

【国際マンガ研究 5】

マンガにおけるオルタナティブの多面性

2014 年 5 月 31 日初版第 1 刷発行

編 集：ジャクリーヌ・ベルント
(京都精華大学国際マンガ研究センター)

編集協力：ユー・スギョン、應矢泰紀
雑賀忠宏、佐和那々緒

発行所：京都精華大学国際マンガ研究センター

■ 目次 ■

序文

ジャクリーヌ・ベルント	3
1 欧米国のオルタナティブ・コミックスにおける 自伝的作品についての論考 市毛史朗	13
2 米国における女性オルタナティブ・コミックスの展望 グラフィック・ノベルにおける自伝文学の潮流 中垣恒太郎	39
3 「無視」と「隠微な愉しみ」のあいだ ——「エロマンガ」という領域を捨てることの意義 永山真・雑賀忠宏(対談)	61
4 トゲのある漫画 ——ポスト 3.11 の日本のカートゥーン ロナルド・スチュワート	79
5 「漫画」と「連環画」の間 ——張光宇の連環漫画『西遊漫記』について 焦凡	115
6 星の瞳に映るオルタナティブ ——「典型的」少女マンガの再評価をめざして 門崎昌章&ルーシー・フレーザー/秦美香子 訳	149

7 純情漫画革命

——雑誌としての『九番目の神話』 李信珠	177
8 受容者の見出すオルタナティブ性 ——やおい活動における「芸能・ナマモノ」の役割から 鈴木翠	199
9 観察者として位置づけられる読者 ——山本ルンレンのマンガにおけるナラティブ・ストラテジー 山口恵	221
10 『愛すべき無理難題 マーラー漫画パーク』 キュレーションのコンセプト 應矢泰紀	241
ニコラス・マーラー「スシとマキ」	255
11 ニコラス・マーラーの作品がほのめかす オーストリアにおける「日本」 クラウディア・シュミット	261
ニコラス・マーラー「地獄が満席ならば文学者は地上に戻ってくる」	285
感想文集『古典絵画の巨匠たち』をめぐって	293
執筆者プロフィール	307

目 次

別添

原画' (ダッシュ) 関連の出版物

●『少女マンガの世界～原画' (ダッシュ) 10年の軌跡』(日英版) の刊行



2011年11月26日 88P

所蔵している原画' (ダッシュ) の作品の一部を収録しただけでなく、作家による座談会の記録なども収録。その概要をまとめたものも英訳されている。

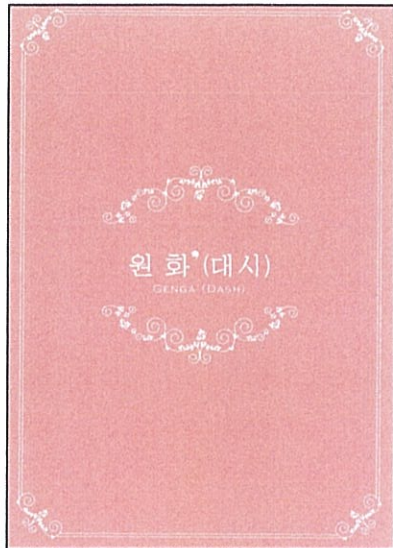
●原画' (ダッシュ) ガイドブック (英語版) の刊行



2012年9月刊行 32P

原画' (ダッシュ) についての基本的な説明や所蔵作家について英語のガイドブックを制作。

●原画'（ダッシュ）ガイドブック（韓国語版）と（中国語版）の刊行



韓国語版 500 部
2014 年 3 月刊行 35P
中国語版 1,000 部
2015 年 12 月刊行 35P

原画'（ダッシュ）を使用した展示報告

- ・2011 年度 東京・京都での展示「少女マンガの世界 原画'(ダッシュ)10 年の軌跡」

<http://imrc.jp/exhivision/2011/09/10.html>

- ・2012 年度 フランス・パリ/ポンピドゥーセンターでの展示「少女マンガの世界 原画'(ダッシュ)10 年の軌跡」

<http://imrc.jp/exhivision/2012/02/lunivers-des-mangas-pour-adolescentesplanete-manga-in-centre-pompidou.html>

- ・2012 年度 ハンガリー・ブダペストでの展示「少女マンガの世界 原画'(ダッシュ)10 年の軌跡」

<http://imrc.jp/exhivision/2012/03/post-9.html>

- ・2012 年度 オーストラリア・メルボルン/モナシュ大学での展示「少女マンガの世界 原画'(ダッシュ)10 年の軌跡」

<http://imrc.jp/exhivision/2012/11/the-world-of-girls-manga.html>

・2013 年度 京都での展示「原画'(ダッシュ)展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく 展」
<http://imrc.jp/exhivision/2013/06/post-11.html>

・2014 年度 東京での展示「原画'(ダッシュ)展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく 展」
http://www.kyotomm.jp/event/exh/gengadash_tokyo2014.php

・2015 年度 イギリス・ケンダルでの展示「Shojo Manga」
<http://www.kyotomm.jp/info/licaf2015.php>

・2015 年度 京都での展示「原画'（ダッシュ）展示シリーズ 青年マンガの世界展」
<http://www.kyotomm.jp/event/exh/dash2015.php>



表紙

LL マンガ版

赤いハイヒール—ある愛のものがたり

2011 年 10 月初版第 1 刷発行

編集発行

LL マンガ研究会

吉村和真 (京都精華大学 マンガ学部)

都留泰作 (京都精華大学 マンガ学部)

藤沢和子 (京都府立南山城支援学校)

日沖桜皮 (株式会社 桜風社)

マンガ作画

都留泰作 (京都精華大学 マンガ学部)

赤いハイヒール LL マンガ版

—ある愛のものがたり

目次

はじめに	吉村和真 (京都精華大学マンガ学部准教授)	2
この冊子について	藤澤和子 (京都府立南山城支援学校教諭)	3
赤いハイヒール——ここまでのおはなし		4
LL マンガ『赤いハイヒール』		
作画 / 都留泰作 (マンガ家・文化人類学者 / 京都精華大学マンガ学部准教授)		
ver 1.1		9
ver 1.2		25
LL マンガ「作画の試行錯誤」	都留泰作	44
LL マンガ版『赤いハイヒール』ができるまで	藤澤和子	45

目次

	展 示 名	池田理代子 ベルサイユのばら原画展
	期 日	2011 年 3 月 19 日(土) - 2011 年 5 月 8 日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー1・2・3
	主催など	京都国際マンガミュージアム
	展覧会趣旨	池田理代子作の「ベルサイユのばら」の名場面を選びすぎり、マンガ原画およそ300点を2会期に分けて展示。また、原画だけではなく、当館所蔵の雑誌資料なども合わせて展示された。 本展の特色は大きく分けて二つ。一つは、原画を鑑賞するポイントをパネルで解説したことである。“なぜマンガの原画は保存すべきものか”を、鑑賞者へ改めて考えてもらう機会となった。もう一つは、様々な研究者より解説文の寄稿をお願いしたことである。メディアミックスや海外展開を伝える資料もともに展示し、「ベルばら」のマンガ史的な位置づけや社会現象について解き明かすことができた。

	展 示 名	13 人のドイツ・コミック作家展—オルタナティブから MANGA まで
	期 日	2011 年 9 月 10 日(土) - 2011 年 10 月 24 日(月)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー4
	主催など	主催: 京都国際マンガミュージアム Goethe-Institut (ドイツ文化センター)
	展覧会趣旨	本展は、日本とドイツの交流 150 周年を記念した「日独交流 150 周年マンガイベント」として日独マンガ交流プロジェクト「日マン独」と共に企画された。 近年国際的に関心が高まる、ドイツ・コミック作家 13 人を紹介する展示だが、ドイツには豊かなコミック文化の歴史があるにも関わらず、近年までコミック界であまり注目を集めてこなかった、歴史的にも、作画スタイルにおいても幅広く紹介できるよう作家が選抜された。 本展は 2010 年夏から、世界各地の Goethe-Institut(ゲーテ・インスティトゥート)を巡回しているワールドツアーの京都展であり、近年世界的に注目を集めるドイツ・コミックスの日本初上陸である。

 山田章博展 2011 4/29(金) - 6/5(日) 世界を生み出す魔法の筆	展 示 名	山田章博 ―世界を生み出す魔法の筆―
	期 日	2011 年 4 月 29 日(金・祝) - 6 月 5 日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー4
	主催など	主催／京都国際マンガミュージアム 協力／(株)角川グループパブリッシング、黒田藩プレス、(株)幻冬舎コミックス、(株)講談社、ソフトバンククリエイティブ(株)、(株)ボンズ、(株)WAVE 出版、初音むつな、砥部 粧、奇楽家本舗(敬称略)
	展覧会趣旨	本展は山田氏によって生み出された繊細かつ美麗な世界観をマンガ、イラスト、ゲーム、アニメ設定画といった多彩な仕事ぶりを通して紹介した。また、制作過程を記録した スライドショー上映や画材を変えることによる演出の違いなど、創作の創意工夫をみることができるコーナーも設置。完成品である原画展示だけではなく、その制作過程にもせまる展覧会となった。

 赤塚不二夫 マンガ大学展 2011/10/29(土) - 12/25(日)	展 示 名	赤塚不二夫マンガ大学展
	期 日	2011 年 10 月 29 日(土) - 2011 年 12 月 25 日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 全館
	主催など	主催／文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会、京都国際マンガミュージアム、第 26 回国民文化祭京都府実行委員会、第 26 回国民文化祭京都市実行委員会 協力：フジオプロ
	展覧会趣旨	戦後マンガのみならず時代そのものを牽引してきた天才マンガ家・赤塚不二夫の“再発見”を目的としたプロジェクトとして開催した。 幅広い作品世界を貴重な資料等で紹介すると同時に、彼が生き、彼が創った時代をも浮き彫りにする「ケンキュー篇」と、赤塚ワールドを受け継いだアーティストたちによる新作アート作品を展示する「ゲージツ篇」を開催。マンガ史に革命を起こしたのみならず、あらゆるジャンルのクリエイターたちに影響を与え続けている赤塚不二夫の魅力を知る展示を行った。 また、世界遺産・二条城における狂言と赤塚マンガのコラボレーション「ネオ狂言」の公演やアート作品の展示、赤塚ゆかりのマンガ家たちによる連続トークショーなども開催。様々な角度から赤塚不二夫を“解剖”する事となった。

	展 示 名	マンガスタイル・ノースアメリカ展 —これもマンガ？北米で活躍するマンガ家たち
	期 日	2012 年 1 月 5 日(木) - 2 月 5 日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー4
	主催など	京都国際マンガミュージアム、京都精華大学国際マンガ研究センター
	展覧会趣旨	本展覧会では、重要なコミック文化圏でありながら、これまで取り上げられる機会の少なかった北米のマンガに焦点を当て、異なるジャンルで活躍するマンガスタイルの作家 3 名に焦点をあてた展示を行った。スーパーヒーロー・コミックスをマンガスタイルで描く宮沢武史氏、青年向け作品を描き Manga として受容されるフェリーペ・スミス氏、少女向け Manga の代表的な作家と捉えられているスヴェトラナ・シマコヴァ氏である。作家たちの作品に触れながら、北米のマンガスタイル、マンガブームについても考察する展示となった。

	展 示 名	世界のコミックス作家がみた 3.11～マグニチュード・ゼロ～
	期 日	2012 年 3 月 3 日(月) - 2012 年 5 月 6 日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー6
	主催など	主催：京都国際マンガミュージアム 後援：在日フランス大使館 協力：Mind Creators／カフェサレ(CFSL)
	展覧会趣旨	2011 年 3 月 11 日に発生した大地震とそれによって引き起こされた原発事故は、国内だけでなく、海外にも大きな衝撃を与えた。震災直後、フランスのコミックス原作者ジャン＝ダヴィッド・モルヴァン氏の提案により、世界中のコミックス作家からチャリティーイラストを集める「Tsunami(ツナミ)」プロジェクトが発足、わずか 3 週間で約 2,700 の作品が寄せられる。その中から 250 点が選ばれ、カフェサレからイラスト集『マグニチュード 9』として刊行され、話題となった。 本展は、Mind Creators による『マグニチュード 9』の日本語版『マグニチュード・ゼロ』(朝日新聞出版、2012 年)刊行プロジェクトと並行して企画された。展覧会には、『マグニチュード・ゼロ』に収録された、『マグニチュード 9』から選ばれた 65 点と、今回描き下ろされるなどした 50 点のイラスト計 115 点以上の作品を、キャンバス地に模した特殊な紙に印刷し、展示した。

	展 示 名	Kyoto MaGiC 展覧会 少女マンガとファッション—中原淳一と高橋真琴の世界
	期 日	2012 年 3 月 30 日(金) - 2012 年 7 月 1 日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー4
	主催など	京都市、京都国際マンガミュージアム
	展覧会趣旨	2011 年より始まった「少女マンガ」からインスピレーションを得た衣類の開発プロジェクト「Kyoto Manga Girls Collection」(略称; Kyoto MaGiC)。「少女マンガとファッション」の関係を改めて解き明かすとともに、京都の新産業の創出を目的としてきている。第一弾の企画として、「少女マンガとファッション」の原点的な作家である「中原淳一」と「高橋真琴」の作品をテーマに衣類の開発を行った。展覧会以外にも完成作品はファッションショーを行い披露した。

	展 示 名	荻原征弥・BELNE 原画展—幻想神話を描く
	期 日	2012 年 8 月 25 日(土) - 2012 年 9 月 23 日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー6
	主催など	京都国際マンガミュージアム / 京都精華大学国際マンガ研究センター
	展覧会趣旨	マンガ家であり、京都精華大学で教鞭をとる荻原征弥氏と belne 氏を紹介する展覧会を開催した。 淡い色彩でファンタジックな世界を描く荻原征弥氏と、大胆なタッチで独特の世界を描く belne 氏の、“幻想神話”をテーマとした原画作品を一堂に集めた。未発表の作品を含む、両氏の原稿が間近で見られるほか、使用画材や絵が完成するまでのプロセスなども展示した。両氏作品のファンはもちろん、絵を描く方にとっても貴重な機会となった。 また、会期中に 2 日間、両氏がギャラリーでライブドローイングイベントを行った。

	展 示 名	寺田克也 ココ 10 年展
	期 日	2013 年 3 月 16 日(土) - 13 年 6 月 30 日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー1・2・3
	主催など	主催: 京都国際マンガミュージアム 協力: 飛鳥新社、エンターブレイン、講談社、集英社、小学館集英社プロダクション、ダイナミックプロダクション、タツノコプロノヤッターマン製作委員会、手塚プロダクション、徳間書店、早川書房、パイ インターナショナル、プロダクション I.G、マガジンハウス、ワニマガジン社、他(五十音順) 後援: 朝日新聞社
	展覧会趣旨	マンガ家、イラストレーター寺田克也氏のカラーイラストや設定画など作品(原画を含む)約 300 点の展覧会を開催した。寺田氏の最近の 10 年ほどの仕事を、マンガ、イラスト、ゲーム、キャラクターの設定画といった多彩で膨大な作品と共に紹介。また、制作過程を記録した映像の上映など、創作の創意工夫を知ることができるコーナーも設置し、その制作過程にもせまる展覧会となった。 なお本展では、編集者、展覧会プロデューサーとして活躍の伊藤ガビンが監修を行った。

	展 示 名	原画(ダッシュ)展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく 展
	期 日	2013 年 6 月 22 日(土) - 2013 年 10 月 22 日(火)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー4、6
	主催など	京都精華大学国際マンガ研究センター／京都国際マンガミュージアム
	展覧会趣旨	藤井千秋(31 点)、花村えい子(31 点)、ちばてつや(32 点)の新作と、竹宮恵子の新作を含む 34 点の計 128 点を展示した。原画(ダッシュ)展示シリーズとしては初めてギャラリー2 室(2 階 4・6)を使用した展覧会となった。ギャラリー4 には抒情画に影響を受けた藤井千秋と花村えい子の作品を展示した。最後の抒情画家といわれる藤井と、少女マンガ発展期の先駆的作家となった花村のそれぞれの可憐でかわいい少女たちの世界が展開された。ギャラリー6 にはちばてつやと、竹宮恵子の作品を集め、少年漫画家の描く少女マンガ、少女漫画家の描く少年マンガを展示した。作品の凛々しい主人公の姿とともに、当時の雑誌など貴重な資料も展示し、ファンにとっても、あらためて作家を知る来館者にとってもその魅力を堪能できる展覧会となった。

	展 示 名	手から手へ展 ～絵本作家から子どもたちへ 3.11 後のメッセージ
	期 日	2014 年 3 月 1 日(土) - 2014 年 5 月 18 日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー1・2・3
	主催など	主催 京都国際マンガミュージアム、京都精華大学 国際マンガ研究センター 共催 手から手へ実行委員会、日本国際児童図書 評議会(JBBY) 後援 絵本学会、スロバキア共和国大使館、スロバ キア郵政
	展覧会趣旨	本展は、日本の絵本作家たちが「3.11後の世界から私たちの未来を考える」というテーマで国内外の仲間たち呼びかけて作品を募った展覧会だ。2012 年 3 月、イタリアのボローニャを皮切りにヨーロッパ 5 ヶ国を巡回し、2013 年新たな呼びかけに応じてさらに多くの絵本作家が参加。総勢 7 か国 110 人の描き下ろし原画作品を展示し、未来を生きる子どもたちへの想いを伝えた。品)を展示した。

	展 示 名	企画展「バレエ・マンガ ～永遠なる美しさ～」
	期 日	2013 年 7 月 13 日(土) - 2013 年 9 月 23 日(月)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー1・2・3
	主催など	京都精華大学国際マンガ研究センター／京都国際マンガミュージアム
	展覧会趣旨	少女マンガは、戦後より一気に花開いた文化であるが、そうした中で多く描かれたテーマの一つに「バレエ」がある。また、日本において「バレエ」が他の国と比べて、お稽古ごととして定着するなど、独特な発展を遂げてきた背景には、「少女マンガ」の存在は大きい。 本展は、少女マンガの発展とバレエとの関係、日本において実際のバレエ受容とマンガがいかにリンクしてきたかを、バレエ・マンガを描いた代表的な作家 12 名を中心に、原画を含む約 400 点の資料にて紹介する展示である。兵庫県立芸術文化センター薄井憲二バレエ・コレクション所蔵のバレエ資料や、有馬龍子バレエ団・京都バレエ専門学校所蔵のバレエ衣装や公演映像なども合わせて展示することで、実際のバレエの歴史などについても触れることができた。なお、主にカラー原画については2会期に分けて展示している。 本展に際しては、「バレエ・マンガ研究会」を結成し、その研究にあたったが、その成果が反映された展示である。現在、その内容は、関連書籍として刊行された太田出版刊行の図録『バレエ・マンガ～永遠なる美しさ～』で詳しく読むことができる。

	展 示 名	土田世紀全原画展——43年、18,000枚。
	期 日	2014年5月31日(土) - 2014年8月31日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2階 ギャラリー1・2・3
	主催など	主催 京都国際マンガミュージアム／京都精華大学 国際マンガ研究センター 協力 横手市まんが美術館／世紀のプロジェクト
	展覧会趣旨	「俺節」や「編集王」、「同じ月を見ている」など才気あふれる作品を次々と世に送り出し、「天才」と呼ばれながらも早逝したマンガ家・土田世紀を、発見されている全原画約18,000枚やトリビュート作品等で紹介する展覧会を行った。 また、本展に合わせ、土田作品に共鳴したマンガ家たちによるトークショーや、会期中限定のオンデマンド本の出版など、関連事業も数多く行われた。

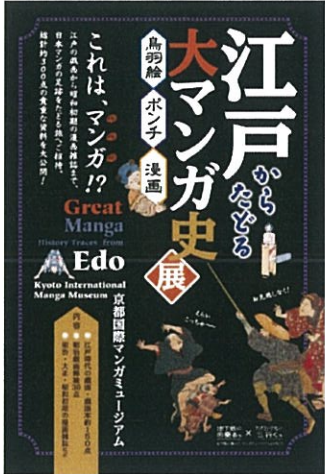
	展 示 名	漫画家生活 50 周年記念 青池保子 華麗なる原画の世界 ～「エロイカ」から「ファルコ」まで～
	期 日	2014年11月1日(土) - 2015年2月1日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2階 ギャラリー4、6
	主催など	京都国際マンガミュージアム / 京都精華大学 国際マンガ研究センター
	展覧会趣旨	「エロイカより愛をこめて」、「イブの息子たち」、「アルカサルー王城」、「修道士ファルコ」——…シリアスな歴史ロマンから、美形の男たちがおりなすアクションコメディまで、多彩な作品で、少女マンガの新境地を切り開いてきた漫画家・青池保子。 青池保子氏の画業 50 周年を記念し、青池作品の華麗なる原画の世界を堪能できる企画展を開催した。総計 300 点以上の原画が公開される本展は、青池保子の初の大々的な個展でもあった。

	<table border="1"> <tr> <td>展 示 名</td><td>愛すべき無理難題 マーラー漫画パーク</td></tr> <tr> <td>期 日</td><td>2014 年 12 月 2 日(木) - 2015 年 2 月 8 日(日)</td></tr> <tr> <td>会 場</td><td>京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー1・2・3</td></tr> <tr> <td>主催など</td><td>主催: 京都国際マンガミュージアム / 京都精華大学国際マンガ研究センター 協力: クレムス市カリカチュアミュージアム / オーストリア大使館</td></tr> <tr> <td>展覧会趣旨</td><td> オーストリア・ウィーン出身の漫画家ニコラス・マーラーは、日本のサブカルや、アメコミのファンカルチャー、または引きこもりといった社会問題などを題材に、観察者的な視点で物語を滑稽に描くカートゥニストである。他にもオーストリア文学のコミカライズや、「漫画はアートか？」を論ずるストーリー作品、哲学的で抽象的なイラスト漫画なども描いており、他に類を見ない漫画家として世界中から注目を浴びている。 彼の表現手法は題材によって異なり、1～4コマ、ストーリー漫画、抽象的なイラスト漫画、立体、映像など、様々な形態で表している。この度の企画展ではこれら作品から約 160 点を展示した。 展示形式もマーラーの作品をリラックスして閲覧して欲しいというコンセプトから、一部の作品を展示する空間(ギャラリー1, 2)を公園に見立て、人口芝生を床に敷き詰めた。その対比として文学や絵画をテーマにした作品は、美術館の内装をイメージした格式張った空間(ギャラリー3)に展示した。 </td></tr> </table>	展 示 名	愛すべき無理難題 マーラー漫画パーク	期 日	2014 年 12 月 2 日(木) - 2015 年 2 月 8 日(日)	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー1・2・3	主催など	主催: 京都国際マンガミュージアム / 京都精華大学国際マンガ研究センター 協力: クレムス市カリカチュアミュージアム / オーストリア大使館	展覧会趣旨	オーストリア・ウィーン出身の漫画家ニコラス・マーラーは、日本のサブカルや、アメコミのファンカルチャー、または引きこもりといった社会問題などを題材に、観察者的な視点で物語を滑稽に描くカートゥニストである。他にもオーストリア文学のコミカライズや、「漫画はアートか？」を論ずるストーリー作品、哲学的で抽象的なイラスト漫画なども描いており、他に類を見ない漫画家として世界中から注目を浴びている。 彼の表現手法は題材によって異なり、1～4コマ、ストーリー漫画、抽象的なイラスト漫画、立体、映像など、様々な形態で表している。この度の企画展ではこれら作品から約 160 点を展示した。 展示形式もマーラーの作品をリラックスして閲覧して欲しいというコンセプトから、一部の作品を展示する空間(ギャラリー1, 2)を公園に見立て、人口芝生を床に敷き詰めた。その対比として文学や絵画をテーマにした作品は、美術館の内装をイメージした格式張った空間(ギャラリー3)に展示した。
展 示 名	愛すべき無理難題 マーラー漫画パーク										
期 日	2014 年 12 月 2 日(木) - 2015 年 2 月 8 日(日)										
会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー1・2・3										
主催など	主催: 京都国際マンガミュージアム / 京都精華大学国際マンガ研究センター 協力: クレムス市カリカチュアミュージアム / オーストリア大使館										
展覧会趣旨	オーストリア・ウィーン出身の漫画家ニコラス・マーラーは、日本のサブカルや、アメコミのファンカルチャー、または引きこもりといった社会問題などを題材に、観察者的な視点で物語を滑稽に描くカートゥニストである。他にもオーストリア文学のコミカライズや、「漫画はアートか？」を論ずるストーリー作品、哲学的で抽象的なイラスト漫画なども描いており、他に類を見ない漫画家として世界中から注目を浴びている。 彼の表現手法は題材によって異なり、1～4コマ、ストーリー漫画、抽象的なイラスト漫画、立体、映像など、様々な形態で表している。この度の企画展ではこれら作品から約 160 点を展示した。 展示形式もマーラーの作品をリラックスして閲覧して欲しいというコンセプトから、一部の作品を展示する空間(ギャラリー1, 2)を公園に見立て、人口芝生を床に敷き詰めた。その対比として文学や絵画をテーマにした作品は、美術館の内装をイメージした格式張った空間(ギャラリー3)に展示した。										

	<table border="1"> <tr> <td>展 示 名</td><td>知られざる中国〈連環画 (れんかんが)〉 ～これも「マンガ」?～</td></tr> <tr> <td>期 日</td><td>2015 年 4 月 25 日(土) - 2015 年 7 月 5 日(日)</td></tr> <tr> <td>会 場</td><td>京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー4</td></tr> <tr> <td>主催など</td><td> 主催: 京都国際マンガミュージアム / 京都精華大学国際マンガ研究センター 協力: 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット(UBRJ) 監修: 武田雅哉(北海道大学大学院文学研究科教授、中国文化研究者) </td></tr> <tr> <td>展覧会趣旨</td><td> 縦 10 センチ×横 13 センチほどの手のひらサイズの本のなかで、古典物語から娯楽活劇、はたまた革命の英雄たちが活躍する政治宣伝色の強い物語に至るまで中国社会のありとあらゆる物語をビジュアル化し、庶民のための読み物として展開してきたメディア、「連環画」。本展示では、日本ではほとんど知られていないこの連環画の世界を紹介しつつ、マンガという日本の大衆的ビジュアル・メディアとの接点を探った。 </td></tr> </table>	展 示 名	知られざる中国〈連環画 (れんかんが)〉 ～これも「マンガ」?～	期 日	2015 年 4 月 25 日(土) - 2015 年 7 月 5 日(日)	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー4	主催など	主催: 京都国際マンガミュージアム / 京都精華大学国際マンガ研究センター 協力: 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット(UBRJ) 監修: 武田雅哉(北海道大学大学院文学研究科教授、中国文化研究者)	展覧会趣旨	縦 10 センチ×横 13 センチほどの手のひらサイズの本のなかで、古典物語から娯楽活劇、はたまた革命の英雄たちが活躍する政治宣伝色の強い物語に至るまで中国社会のありとあらゆる物語をビジュアル化し、庶民のための読み物として展開してきたメディア、「連環画」。本展示では、日本ではほとんど知られていないこの連環画の世界を紹介しつつ、マンガという日本の大衆的ビジュアル・メディアとの接点を探った。
展 示 名	知られざる中国〈連環画 (れんかんが)〉 ～これも「マンガ」?～										
期 日	2015 年 4 月 25 日(土) - 2015 年 7 月 5 日(日)										
会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー4										
主催など	主催: 京都国際マンガミュージアム / 京都精華大学国際マンガ研究センター 協力: 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット(UBRJ) 監修: 武田雅哉(北海道大学大学院文学研究科教授、中国文化研究者)										
展覧会趣旨	縦 10 センチ×横 13 センチほどの手のひらサイズの本のなかで、古典物語から娯楽活劇、はたまた革命の英雄たちが活躍する政治宣伝色の強い物語に至るまで中国社会のありとあらゆる物語をビジュアル化し、庶民のための読み物として展開してきたメディア、「連環画」。本展示では、日本ではほとんど知られていないこの連環画の世界を紹介しつつ、マンガという日本の大衆的ビジュアル・メディアとの接点を探った。										

	展 示 名	マンガと戦争展 6つの視点と3人の原画から
	期 日	2015年6月6日(土) - 2015年9月6日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2階 ギャラリー1・2・3・6
	主催など	京都精華大学国際マンガ研究センター
	展覧会趣旨	戦後、太平洋戦争をモチーフに描かれた24のマンガ作品を、6つのテーマの中で紹介した展覧会。同じテーマでも様々な視点で描かれていることを示すことで、マンガ表現の多様性を確認すると共に、戦争—平和に関する言説が画一化することで思考停止を招いてしまっている現状に一石を投じることを目的とした。これまでの「戦争マンガ展」では決してありえないことだったが、政治的には相いれないと考えられている作品を同時に紹介したことは、一部で議論を巻き起こし、その意味では目的を達成したと言える。 コンセプトを空間デザインとして表現した会場構成も話題となった。 なお、同展は、西島大介「ディエンビエンフー」の原画が加わった「+α」として、「明治大学 米沢嘉博記念図書館」に巡回した(2016年2月11日～6月5日)。

	展 示 名	萩尾望都 原画展 ～『銀の船と青い海』出版記念～
	期 日	2015年6月18日(木) - 2015年7月14日(火)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 1階 エントランス
	主催など	京都国際マンガミュージアム / 京都精華大学国際マンガ研究センター
	展覧会趣旨	「ポーの一族」や「トーマの心臓」など読者に鮮烈な印象を与える作品を次々と発表し、少女マンガの枠を広げたマンガ家・萩尾望都氏の童話集『銀の船と青い海』(河出文庫)の出版を記念した原画展を開催した。 本展は東京・スパンアートギャラリーにて開催した原画展の一部を巡回したものだが、当館での開催に当たっての追加公開作品もあった。

	展 示 名	江戸からたどる大マンガ史展 ～鳥羽絵・ポンチ・漫画～
	期 日	2015 年 11 月 14 日(土) - 2016 年 2 月 7 日(日)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー1・2・3
	主催など	京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター
	展覧会趣旨	マンガを多くの人が楽しむ「大衆メディア」であることを前提として、印刷出版文化が発達した江戸中期の「戯画」を出発点に、昭和初期の雑誌にいたるまでの流れを展示した。展示されたほとんどの資料は、国際マンガ研究センター／京都国際マンガミュージアムの所蔵品で、本展が初公開の資料が大多数であった。これらは元々、当センターの研究顧問である清水勲氏から譲り受けたものであり、展示の構成も氏の紡ぐ漫画史が参考にされている。 浮世絵の展覧会がブームとなっている昨今、美術史の文脈ではなく、「漫画史」の文脈から江戸戯画を見せることにより、鑑賞の幅を広げることができたのではないだろうか。また、江戸だけでなく、明治以降に発達した雑誌文化や漫画家についても展示の中で言及し、江戸から現代のマンガに至るまでの連続性を見出すことができた。

展示作品例



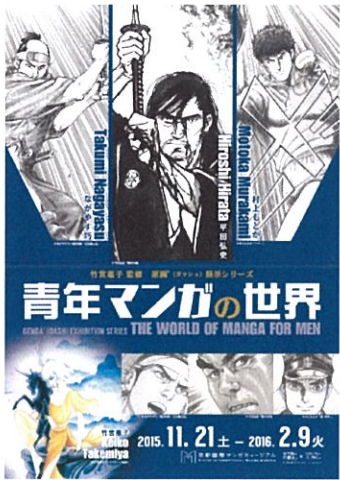
青物魚軍勢大合戦之図



八代目市川團十郎 行年三十二歳



浮世ハ夢だ夢だ

	展 示 名	竹宮恵子監修 原画'(ダッシュ)展示シリーズ 青年マンガの世界
	期 日	2015 年 11 月 21 日(土) - 2016 年 2 月 9 日(火)
	会 場	京都国際マンガミュージアム 2 階 ギャラリー4、6
	主催など	京都精華大学国際マンガ研究センター／京都国際マンガミュージアム
	展覧会趣旨	本プロジェクトではこれまで少女マンガの作家を中心に進めてきたが、今回、初めて青年マンガに着手した。参加した作家は、平田弘史、ながやす巧、村上もとかの3名。いずれも青年マンガ史を語る上で欠かせない人物である。制作時期については、ながやす作品は2013年9月～2014年4月、平田作品は2014年9月～2015年4月、村上作品は2014年12月～2015年4月であり、制作時期の原画の状態をそのまま再現している。過去手がけてきた少女マンガの原画とは違う線や色合いの再現に新たな制作ノウハウを蓄積することができた。 本展では、上記で制作した平田弘史(32点)、ながやす巧(32点)、村上もとか(35点)の新作発表と、竹宮恵子の所蔵作品20点のお蔵出しの機会となった。青年マンガを手がけたことにより、過去の原画'(ダッシュ)展では来なかった客層も呼びこむことができ、プロジェクト自体の幅広い周知につながった。

国際マンガ研究センター主催(または共催)展示一覧

平成23年度(4月1日)～平成27年度(3月31日)

		展示会タイトル	開催場所	備考
平成 23年	1	4月29日(金・祝)～6月5日(日)	MM 2F ギャラリー4	
	2	5月24日(火)～6月19日(日)	MM 1F エントランス	
	3	5月28日(土)～7月3日(日)	MM 2F ギャラリー1・2	
	4	8月20日(土)～29日(月)	紀伊國屋画廊	東京新宿紀伊國屋書店4階
	5	11月26日(土)～翌年1月29日(日)	MM 2F ギャラリー6	
	6	9月10日(土)～10月24日(月)	MM 2F ギャラリー4	
平成 24年	7	1月5日(木)～2月5日(日)	MM 2F ギャラリー4	
	8	2月27日(月)～3月4日(日)	フランス・パリ	ボンピドゥー・センター内
	9	3月3日(土)～5月6日(日)	MM 2F ギャラリー6	
	10	3月6日(火)～3月8日(木)	ハンガリー・ブダペスト	ハンガリー現代美術館及び日本文化センター内 協力:国際交流基金
	11	5月26日(土)～7月17日(火)	MM 2F ギャラリー6	
	12	7月26日(木)～8月19日(日)	MM 2F ギャラリー6	
	13	8月18日(土)～9月9日(日)	MM 1F エントランス	
	14	8月25日(土)～9月23日(日)	MM 2F ギャラリー6	
	15	11月23日(金)～11月26日(月)	オーストラリア・メルボルン	モナシユ大学日本文化センター内 協力:国際交流基金

会 期		展示会タイトル	開催場所	備考
平成 25年	16	3月7日(木)～6月16日(日)	MM 2F ギャラリー6 ほか館内各所	
	17	6月22日(土)～10月22日(火)	MM 2F ギャラリー4・6	
	18	6月29日(土)～9月29日(日)	MM 1F エントランス	
	19	7月13日(土)～9月23日(月・祝)	MM 2F ギャラリー1・2・3	
	20	10月31日(木)～翌年2月11日(火)	MM 2F ギャラリー4・6	
平成 26年	21	3月1日(土)～5月18日(日)	MM 2F ギャラリー1・2・3	
	22	3月15日(土)～5月25日(日)	MM 2F ギャラリー6	
	23	3月23日(日)～6月8日(日)	MM 2F ギャラリー4	
	24	4月28日(月)～5月9日(金)	文房堂ギャラリー	東京・神田
	25	5月31日(土)～8月31日(日)	MM 2F ギャラリー1・2・3・6	
平成 27年	26	11月1日(土)～翌年2月1日(日)	MM 2F ギャラリー4・6	
	27	12月2日(火)～翌年2月8日(日)	MM 2F ギャラリー1・2・3	
	28	3月7日(土)～5月31日(日)	MM 2F ギャラリー6	
	29	4月25日(土)～7月5日(日)	MM 2F ギャラリー4	
	30	6月6日(土)～9月6日(日)	MM 2F ギャラリー1・2・3・6	
	31	6月18日(木)～7月14日(火)	MM 1F エントランス	
	32	6月27日(土)～8月31日(月)	MM 館内9箇所	
	33	7月16日(木)～8月4日(火)	MM 1F エントランス	
	34	8月13日(木)～11月2日(月)	オーストラリア・シドニー	国際交流基金ギャラリー 協力: 国際交流基金
	35	10月1日(木)～11月1日(日)	イギリス・ケンダル	Brewery Arts Centre (ブルワリーアートセンター)
	36	11月14日(土)～翌年2月7日(日)	MM 2F ギャラリー1・2・3	
	37	11月21日(土)～翌年2月9日(火)	MM 2F ギャラリー4・6	

メディア(新聞、雑誌、TV、WEB等)記事掲載件数

単位(件)

	2011年度 平成23年度	2012年度 平成24年度	2013年度 平成25年度	2014年度 平成26年度	2015年度 平成27年度	合 計
TV	12	7	7	2	13	41
ラジオ	8	5	8	2	3	26
新聞	124	100	72	73	63	432
雑誌/情報誌	121	52	74	77	57	381
WEB	87	58	94	81	74	394
その他(海外メディア含む)	11	2	5	3	8	29
合 計	363	224	260	238	218	1303